平成31年1月21日（月曜）長崎新聞

非金属材料で再修復

金属アレルギー

お口の相談室

【問い】歯の治療でつめ物やかぶせ物に使用する金属でもアレルギーを起こすことがあると友人から聞きました。大丈夫でしょうか？

（長崎市、35歳女性）

【答え】歯科治療は、古くから金属材料の恩恵を多大に受けてきました。歯の修復材料として金属は使われています。その耐食性は日常で使用される金属よりも高く、医療用材料として厳しい検査をパスしてきたものです。

しかしながら、口の中ではどんなに耐食性に優れた金属材料でもイオンとして溶出することが知られています。溶出するイオンの量はごく微量で、健常な人には問題を生じないレベルです。人体には必要な金属イオンが存在し、私たちが日常に摂取する食物にも金属イオンは存在しています。しかしながら一部の金属イオンに対するアレルギー反応を持つ金属アレルギーの患者さんは、溶出した金属イオンの影響で、さまざまな症状を引き起こします。

金属アレルギーは、接触アレルギーの典型的な反応と考えられています。金属イオンが直接接した部位（口の中）で発症する局所性接触皮膚炎と、口の中の粘膜や消化器粘膜から血流に乗り全身に散布され皮膚において発症する全身性接触皮膚炎があります。それらの症状は多種多様で、金属アレルギーが原因とは気付かないものもあります。

金属アレルギー患者の歯科治療に対しての明確なガイドラインは存在しませんが、原因となる金属修復物の除去が第一選択でしょう。その後、非金属材料での再修復治療となります。以前、非金属修復材料での歯科治療は健康保険外の診療で高額でしたが、現在は健康保険診療の中にも使用可能な非金属修復材料が存在します。金属アレルギーの診断がある患者さんはその適用範囲も広くなっています。

「口の中の金属が原因のアレルギーかも」とお悩みの方は皮膚科医院か、かかりつけ歯科医院にご相談ください。

回答者
黒木（くろぎ）唯文（たぶみ）
長崎大学病院歯科材料アレルギー外来

質問をどうぞ

歯と口の健康に関する質問を受け付けます。県歯科医師会の先生方が回答します（直接本人に回答はしません）。症状などを分かりやすくまとめ、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、〒852－8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「お口の相談室」係に送ってください。県歯科医師会のホームページは「802O ながさき」で検索できますので参考にしてください。